

15. 経営の安定化を目指した放牧の推進 ～儲かる放牧へ～

北部振興局 生産流通部
○佐伯真菜美、好田真由美

1 背景・目的

畜産経営は、飼料費や燃料費の高騰により厳しい状況にある。加えて、高齢化や担い手の不足により急激に飼養頭数が減少している。大分県北部地域は県内水田面積の1/3を占める水田地帯であるが、最近の7年間で耕作放棄地は930ha増加している。一方、飼料費高騰等により肉用牛繁殖雌牛の頭数は数年前から減少傾向にある。

大分県では、畜産経営体にとっては飼養管理の省力化やコスト削減が可能であり、中山間地域にとっては耕作放棄地解消や、景観の向上、鳥獣害対策に効果がある「おおいた型放牧」を推進している。今回、管内の取り組み事例について報告する。

2 内容および成果

(1) 宇佐市放牧ボランティアを活用した放牧地整備の取り組み

宇佐市事業を活用し、市・地域協議会・家保・振興局等の関係機関が協力し、ボランティアを活用した放牧地整備を行った。ボランティアを活用することで、高齢化や農繁期での労働力の不足を補うことが可能となっている。3カ年で宇佐市内の耕作放棄地4カ所、計4haで放牧地を拡大している。電柵の設置や牧草の播種等の放牧地整備に加え、地域住民との交流を行うことで、放牧に対する理解を深めることができている。

(2) 耕作放棄地を集積した放牧の取り組み

豊後高田市で過放牧で悩んでいた近隣の繁殖農家が、高齢化により耕作放棄されていた7名の土地で作業受託を締結し、放牧を開始した。集落住民に対しては、助成金を活用することで経済的な効果と耕作放棄地の解消、畜産農家に対しては飼料費の削減や所有地の少ない農家でも放牧が可能となっている。

(3) 周年親子放牧の取り組み

豊後高田市では新たに放牧を開始した4名により組織される「西高の農地を守る放牧の会」が活動を行っている。その会員の一人である(有)富貴茶園では「周年親子放牧」を実施しており、子牛1頭当たりの生産コストは全国平均の半分以上、労働時間は1/3以下と、低コスト化・省力化を実現している。

また、当方式を参考とし、耕作放棄地の解消と繁殖経営への展開を目的に、中津市の非畜産農事組合法人において放牧の取り組みを開始した。

3 今後の取り組み

「周年親子放牧」に取り組み始めた農事組合法人への技術指導を継続して行い、繁殖農家として経営が成り立つよう支援していく。

また、肥育時の影響や枝肉成績の分析を行っていく必要がある。